

# 令和5年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 鳴水 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

##### 教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問紙調査

##### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

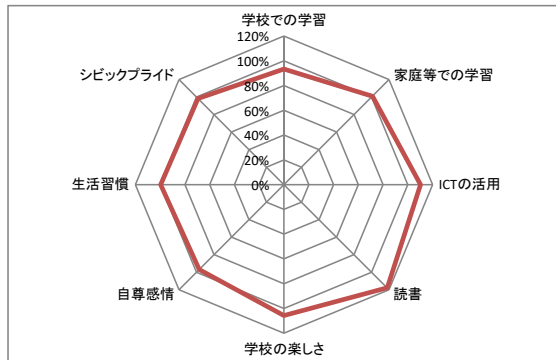
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を上回っている。文章の種類とその特徴への理解、中心となる語句や文を見付けて要約するなど、話の中心をつかむことについて、高い正答率を示した。一方で、自分の考えを「書く」ことについては課題が見受けられた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	漢字（知識・技能）・話の中心をつかみ要約すること・図や表から必要な情報を見付けること（思考・判断）	
	努力が必要な問題	感想や意見の伝え合い・図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表すなどの工夫等（表現）	

算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率をやや下回っている。知識技能を問われ、短答で回答する問題については、高い正答率を示している。一方で、数量と割合など、生活場面に応じた問題に対して正答率が低かった。また、記述回答に課題が見受けられた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	整数の計算（2つの2位数の乗法など）・図形の理解（知識・技能）・表の中の変化の特徴をつかむ	
	努力が必要な問題	生活場面に応じた割合・生活場面に応じた小数の加法や乗法・図形の大小の判断等（思考・判断・表現）	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



**質問紙調査の結果分析**

○「学校に行くのは楽しい」（約98%）、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになる」（約93%）、「友達関係に満足している」（約85%）、など、様々な問いへの肯定的な回答数の多さから、学校生活を含め、児童自身の生活全体に満足感を得ていることが分かる。今後も、家庭との連携を深めながら、学校全体で授業改善と互いの関係性を深め、自己有用感を感じることができていく学級経営を進める。

○学習面の課題として「表現すること」が挙げられる。「自分と違う意見について考えるのは楽しい」という問いに対する肯定的な回答約82%と授業でのICT活用率の高さと児童の有用性実感の高さから、ICTを効果的に活用した意見交換の機会を設けるなどの工夫をしながら、授業において、考えを伝え「友達に理解してもらえることがうれしい」、「みんなの考えが広がったのが楽しい」といった実感をもたせることが必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

前述したように、国数ともに、記述などの「表現すること」に課題がある。1学期の取組の点検を行い、2学期には、授業改善として、「発問の工夫」と「話し合い活動の充実」の強化に取り組んだ。結果として、「授業で考えを広げたり、深めたりすることができた」・「話し合いが楽しい」という実感につながっている。前述したICT活用も含めながら、児童の実感に対応した授業改善に、今後も取り組んでいく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

読書に対する意欲は高いものの、家庭での読書機会が少ないという結果がある。本校独自の「読み聞かせ」や「朝読」を継続しつつも、読書を習慣付ける方法を検討していきたい。また、自主学习については、重要項目として取り組んでいる。今年度は、卒業生からの自主学习に対するメッセージや互いの自主学习ノートのよいところの学び合いなど、これまでの推進に新たな試みを加えている。今後も継続していく。